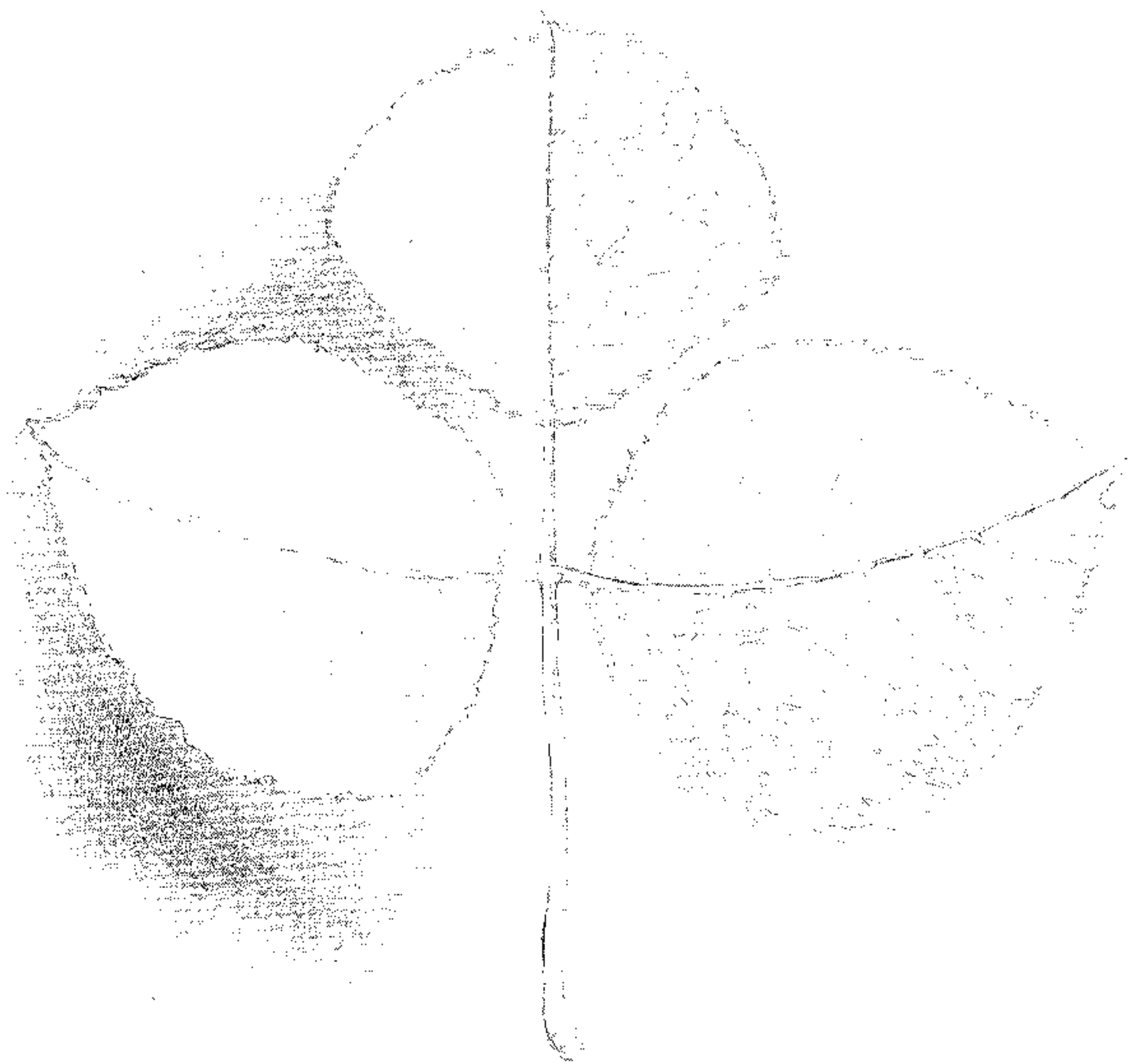


J.S.Bach

Messe in h-moll BWV 232

# 短調ミサ曲



2000年2月13日(日) アクトシティ浜松中ホール

主催：浜松バッハ研究会、豊橋バッハアンサンブル  
後援：浜松市・浜松市教育委員会、豊橋市・豊橋市教育委員会、(財)浜松市文化協会  
(財)アクトシティ浜松運営財団、テレビはままつ

## ごあいさつ

本日はお忙しい中、浜松バッハ研究会「口短調ミサ曲演奏会」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

本年は2000年という区切りの年ではありますが、1750年に没したJ.S.バッハの没後250年にもあたり、「バッハイヤー」、「Bach2000」として各地で記念事業がおこなわれているようです。またバッハ生誕300年を期に1985年に結成されたわれわれバッハ研究会にとりましても創立15周年という区切りの年になります。このような記念すべき年に、バッハ三大宗教曲のひとつ「口短調ミサ曲」を演奏できますことはこの上のない喜びです。

今から10年前、初めて三澤先生を指揮者としてお迎えし演奏したのもこの曲でした。当時は初めて迎えたプロの指揮者のもとフレッシュな気持ちでこの曲に挑み、技術的には未熟ながら、冒頭のビッグバンを思わせるような出だしから終曲まで自分達の力以上の何かに守られて、真の音楽に触れた貴重な演奏になりました。それから10年、再演するからには前回を超える演奏を目指したい、と2年間の準備期間をとって本日の演奏会にのぞみました。その間、浜松市内外からボイストレーナーの先生をお迎えし発声の基礎を学び、日々の練習でバロックのアーティキュレーションを確認し、また団員各自が個別にボイストレーナーについたり書物を調べたりと、バッハ研究会の名に恥じない演奏をめざして努力してまいりました。まだまだ技術的には未熟な面や課題が数多くのこされていますが、今日の演奏会でこの2年間の成果を少しでも表現したいと思います。

最後になりましたが、本日も来場くださいました皆様、常日ごろより私たちの活動を支えてくださっている皆様に会員一同心から感謝いたします。

浜松バッハ研究会代表 早川徳次

## 上演曲目

### J.S.バッハ：「ミサ曲口短調」 J.S.Bach(1685-1750): Messe h-moll BWV232

-----  
MISSA / Kyrie, Gloria (ミサ / 求憐誦、栄光頌)

Intermission (休憩)

SYMBOLUM NICENUM (ニケア信条)

SANCTUS (サントゥス)

OSANNA, BENEDICTUS,  
AGNUS DEI ET DONA NOBIS PACEM  
(オザンナ、ベネディクトゥス、  
アグヌス・デイとドナ・ノビス・パーツェム)

# 出演者一覧

## 合唱団

ソプラノ	アルト	テノール	バス
岡留美	安藤美津恵	岡雅章	青木繁光
岡田典子	井戸恵子	川口強	安藤祐治
金子ますみ	伊藤道子	鴻巣学	生駒修治
富安典子	小貫素子	武石薫	大石泰由
中村直子	金子恒江	戸島準一郎	小貫勇作
丹羽多美子	木山道子	長井進	駒沢真司
長谷川悠	小林益世	丹羽哲也	高森義之
早川真央	杉山節子	早川徳次	萩野潔
早川実花	鈴木理恵	深尾正之	長谷川正仁
深尾久子	武田清美	森光彦	長谷部雅彦
毛利優子	浪崎加代		村上浩
井浦芙蓉子	長谷川明子		毛利行弘
今村陽子	馬淵京子		安井研一
三宅ゆりの	森田悦子		山田和典
	谷中理畝子		
	山田智子		

[ 練習伴奏ピアニスト : 高木克子 ]

## 管弦楽団

第1バイオリン	北川靖子、生駒尚子、小沢規子、鳥谷みどり、中林尚之
第2バイオリン	木村英道、小野雅史、田邑利香、東儀温、水谷奈緒子
ビオラ	秋元紀子、小林勝、徳弘太郎、山内絵理
チェロ	神農清志、山内明
コントラバス	田邑元一
フルート	木村伊都子、松永寛美
オーボエ	宮岡慎里、久米慶子、村松伸一
ファゴット	曾布川利貞、矢野祐幸
ホルン	末永雄一朗
トランペット	海保泉、磯部謙作、亀山敏昭
ティンパニ	今泉好雅
オルガン	花井淑

ソプラノ 独唱：藤崎美苗

ソプラノ ・アルト独唱：永島陽子

テノール独唱：西垣俊朗

バス独唱：長谷川顯

指揮：三澤洋史

## 主な出演者のご紹介

### 指揮：三澤洋史

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業。在学中より指揮者を志し、故山田一雄氏に師事。その後ベルリンに渡り、ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。帰国後はオペラ指揮者としてデビュー。二期会音楽スタッフの中心的存在として活躍。二期会合唱団や東京オペラシンガーズを中心とした我が国の合唱指揮者としての地位は、今や不動のものとなっている。サバリッシュ、ホルスト・シュタイン、デュトワなど外来指揮者からの信頼も厚い。バッハに深く傾倒し「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」などを全て暗譜でレパートリーに持つ。東京芸術大学で声楽科合唱と大学院オペラ科を講座として担当。バロックから現代まで声楽を伴うオーケストラ作品の全ての分野に精通する。1999年度パイロイト音楽祭に、名合唱指揮者ノルベルト・バラッチのアシスタントとして参加。その業績が認められ、2000年にも再び招聘されている。

### ソプラノ 独唱：藤崎美苗

岩手県出身。岩手大学教育学部中学校教員養成課程音楽科卒業、東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、現在東京芸術大学大学院修士課程1年在学中。声楽を佐々木まり子、佐々木正利、瀬山詠子、朝倉蒼生の各氏に師事する。また東京芸大バッハカンタータクラブにおいて小林道夫氏の指導の下研鑽を積んでいる。第10回友愛ドイツ歌曲コンクール第2位入賞。京葉混声合唱団、コーロ・プリランテ両ヴォイストレーナー。

### ソプラノ ・ アルト独唱：永島陽子

桐朋学園大学音楽学部声楽科卒業。1976年春渡欧。1976年～1980年オーストリア、ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科に在籍。1980年旧東ドイツ、ライプツィヒにおける国際バッハ・コンクールにて女声5位入選。同年ウィーン国立音楽大学リート・オラトリオ科を最優秀にて卒業。1980年～1986年旧西ドイツ、デトモルト国立音楽大学声楽科に在籍。1983年同大学を最優秀にて卒業。1986年演奏家国家試験を最優秀にて修了。萩谷納、ヴォルフガング・シュタインブリュック、ローマン・オルトナー、ヘルムート・ドイチュ、ヘルムート・クレッチマルク、ユリア・ハマリ、ディートリッヒ・フィッシャー=ディースカウの各氏他に師事。1980年以来ドイツを中心にヨーロッパ各地、イスラエル、日本でリートおよびオラトリオの演奏活動が続いている。これまでに、バッハの作品ではクリスマス・オラトリオを61回、口短調ミサ曲を23回、ヨハネ受難曲を22回、マタイ受難曲を10回、マグニフィカートを8回、カンタータは79曲を計150回程度、ヘンデルのメサイアを33回、ヴェルディのレクイエムを4回、ドヴォルザークのレクイエムを2回、マーラーの亡き子をしのぶ歌を4回、等々を演奏している。1997年春帰国。現在、桐朋学園大学音楽学部非常勤講師。

### テノール独唱：西垣俊朗

大阪音楽大学大学院修了。在学中より宗教曲に手を染め、カンタータ、オラトリオの演奏には欠かせないコンサート歌手として活躍。特にバッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」等の“エヴァゲリスト歌い”として高く評価されている。1978・79・85年、名テノールE.ヘフリガー氏と「マタイ受難曲」で共演。1984年と85年には日本オラトリオ連盟のソリストとして、ヨーロッパ各地で演奏し好評を博す。またアルカディア協会の1989年夏のシンガポール演奏旅行と1990年夏のシンガポール、ヨーロッパ演奏旅行のソリストとして各地で好評を博した。オペラでは1976年、東京オペラ・プロデュース公演のロッシェニ「オーリー伯爵」でデビューし、以後「放蕩息子」「スペインの時」「セヴィリアの理髪師」「ピヴァ・ラ・マンマ」などに出演。また関西二期会を代表するリリック・テナーの一人として「魔笛」「ドン・ジョバンニ」「セヴィリアの理髪師」「真夏の夜の夢」「こうもり」「コシ・ファントゥッテ」などの主演を務めている。昭和59年度神戸市文化奨励賞受賞。浦山弘三、E.ヘフリガーの両氏に師事。関西二期会会員、神戸音楽家協会会員、日本シューベルト協会同人。現在、大阪音楽大学講師。アルカディア室内合唱団副指揮者・ヴォイストレーナー。平成6年度兵庫県芸術奨励賞受賞。

## バス独唱：長谷川 顯

香川県生まれ。国立音楽大学卒業。二期会合唱団に15年間在籍し、年間40本に及びオペラ公演や多数の演奏会に出演し、内外の著名な指揮者、演出家、ソリストに接することで舞台の表裏共に貴重な経験を積み重ねた。96年二期会公演「ワルキューレ」のフンディング役に抜擢され、舞台映えのする長身に加え、豊麗な美声で聴衆を魅了した。続く二期会公演「魔笛」にもザラストロ役で出演。以来、数々の作品でバスの主要な役を演じている。99年には若杉弘指揮「ドン・カルロ」、「群盗」、Bunkamuraオペラ「トゥーランドット」、新国立劇場「仮面舞踏会」と大舞台が続き、今後ますますの活躍が期待されている。浜松バッハ研究会とは96年からバッハ「マタイ受難曲」、モーツァルト「レクイエム」、バッハ「カンタータ」と共演が続いている。二期会会員。

## コンサート・ミストレス：北川 靖子

幼少より父に手ほどきを受け、後 W. シュタフォン・ハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業後、ウィーン国立音楽大学にて F. サモヒール、F. ホレチェックの両教授に師事。1975年、同大学を全教授一致の最優秀賞で卒業。1976年から1984年までハンブルク交響楽団、ハンブルク室内合奏団のコンサート・ミストレスを務める。1985年12月からピアノの北川暁子と「デュオの夕べ」を開催。ソロリサイタルの他、チェロの千本博愛、北川暁子とピアノ三重奏団セルヴェ・トリオとして演奏活動を行っている。

## トランペット：海保泉

1973年 東京芸術大学音楽学部卒業、1974年 日本演奏連盟新人賞受賞。芸大在学中より、バッハの「ブランデンブルグ協奏曲第2番」、数多くのカンタータ、オラトリオ、ミサ曲等を演奏。独奏者としても小林研一郎指揮・東京交響楽団、クルト＝レーデル指揮・東京ソリステン、東京ヴィヴァルディ合奏団、池宮英才指揮・東京バッハ・アンサンブル等と協演。1985年には、ドイツ・バッハ・ソリステンの日本公演に、ヘルムート＝ピンシャーマン氏の指名により参加。広野嗣雄氏、小林道夫氏のパイプ・オルガンとの共演も数多い。室内楽の分野でも、NHKの「夕べのリサイタル」「テレビ・リサイタル」「午後のリサイタル」「クラシック・ライブ・ステージ」を始め、バロックから現代音楽まで幅広く演奏活動をしている。これまでにトランペットを福井功、中山富士雄、ロルフ＝クインケ各氏に、室内楽を小林道夫、ゲルノート＝シュマルクス各氏に師事。上野学園大学、福島大学講師、日本トランペット協会理事。

## オルガン：花井 淑

名古屋音楽大学音楽学部器楽科卒業。オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、F. ボーンの各氏に師事。また、Z. サットマリー、A. シェーンシュテット、H. フォーゲルの各氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、名古屋・カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。古楽アンサンブル<アーベント・ムジーク>メンバー、ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。日本オルガン研究会、日本オルガニスト協会会員。浜松バッハ研究会演奏会には1996年の創立10周年記念「マタイ受難曲」全曲演奏会、1997年の「レクイエム」演奏会、1998年の「モテトとカンタータ」演奏会に出演。

\* 本日使用するパイプ・オルガンは高山市在住のオルガン作家、田尻隆二氏作のコンティヌオ・ポジティブです。

## 浜松バッハ研究会管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、ソナスアンサンブルなどから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらず、レベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

## 天

8月11日(水) 12時35分

アウグスブルク市庁舎前広場は異常な熱気に包まれていた。中空に架かっている太陽は、強引に侵入する姿なき月によってもはや最後の輝きによるかいたなき抵抗を続けるのみになってしまっていた。屈折した光線はあたりを高速道路のトンネル内の光のようにセピア色にしている、人々の顔や建物などの景色から色彩という色彩を奪い去っていた。それでも太陽の光は強烈で、肉眼で直視することを最後まで決して許さなかった。

ふいに光が呑み込まれた。次の瞬間、僕の目の前には信じ難い光景があった。

暗くなった大空に黒い太陽がぼっかりと浮かんでいる。まわりにはコロナが放射状に広がっている。斜め左下を見ると周りとは不釣り合いに明るく光っている星がひとつある。金星だ。

それまでお祭り気分で騒いでいたおびただしい群集は、「おお！」という声を発したきりみな沈黙してしまった。あたりは暗闇。気温が急激に下がる。鳥肌が立つ。涙がこみあげてくる。女性達はすすり泣いている。太古の時代から眠っていた動物的感覚が僕の中で目覚めるのを感じる。

皆既日食は単なる自然現象である。超常現象ではない。アウグスブルクでの100%の皆既日食は12時35分53秒から38分10秒までの2分17秒間であると計算によって出ている。だから僕も科学の恩恵を受けて、いたずらに恐れたりせずにオペラグラスを使ってコロナやプロミネンスを眺めたりも出来た。しかし同時にこの胸の中のいよいよもない感動が、計算やデータの遠く及ばない世界である事もかみしめていた。

畏敬。この言葉が今の自分の感情に一番近いだろう。大自然は神ではないが、森羅万象の背後にあってそれを動かしているおおいなる力の存在を予感する事。それが畏敬である。畏敬は、万物の霊長である人類の持つ最も崇高なる感情である。

創造主が天にしるしを下さった。あたりの人達の顔つきを見ていると、みんな素朴にそう信じているようだった。手を高く上げて拝んでいる者もいた。口をポカンと開けて呆然としている者もいた。市庁舎前広場は光の祭典によって聖なる空間と化していた。

## 地

12月21日(火)

期待していなかっただけに、暗い夜空にあざやかに浮かび出る光のアーチが目飛び込んできた時はアッ！と息を呑んだ。

23日にひかえた「神戸中央合唱団メサイア公演」の為にオーケストラ練習を終えて、僕はタクシーで住吉まで出てみた。車から降りた僕の足元を六甲おろしが容赦なく襲う。だがこの人ばかりはなんだ。真冬の夜だというのにまるで祇園祭りかなにかのようだ。

阪神大震災の後、僕は神戸から目が離せないで毎年ここを訪れてはメサイアを演奏してきた。しかしルミナリエの事はいつも話に聞くのみで、これまで実際に見る機会に一度も恵まれなかった。

人は闇夜の中で光を見ると、独特の感情の昂揚を感じるらしい。キャンプファイヤーやディズニールランドのイルミネーションが、どういう心理的效果を与えるのか考えてみればいい。ルミナリエのデザインは、さすがイタリア人が手がけただけあって、ステンドグラスの装飾にも通ずる格調高いものである。加えてあたりに流れているBGMが変わっている。ポップスや歌謡曲が流れているのではない。賛美歌調の合唱曲だったり、癒し系の音楽だったりするのだ。それらの要素が相まって、ルミナリエは何故か胸が切なくなるほど美しいものとなっていた。

そうした音楽が流れる背景には、あの阪神大震災の傷跡があるのは言うまでもない。ルミナリエは震災のあった1995年の暮れから始まった。神戸復興という祈りをこめて・・・。

その祈りは今日まで受け継がれている。光のアーチの下を歩いていく人達の表情は皆、不思議と

安らかで、それでいて悲しみを全身で受け留めているかのようなのである……。

住吉から三宮まで続くアーケードを抜け、公園にそそり立つ巨大な光の神殿を見た後、人の流れにのって歩いて行ったら三宮の繁華街に出た。繁華街はルミナリエを見た後の客で活気に満ちていた。僕は震災からちょうど1年たった三宮を訪れた時の事を思い出していた。あの頃のこの辺は痛々しかった。まだ至る所に青いビニールシートが見られ、ビルとビルの間に突然全く不釣り合いな空き地が出来ていたっけ。

今こんなに見事に蘇った三宮繁華街を見るのは我が事のように嬉しかった。人間ってやっぱりすごいなと思った。こんなに人が集まって三宮が元気なのもルミナリエのおかげなのかもしれない。ルミナリエが人々の心の中にも光を与えているのだ。

「頑張れ、神戸！ まだまだ癒えていない人々の心の中にも僕の祈りが届きますように。」  
2日後のメサイア演奏会の中、「彼は侮られ」のアルトアリアを指揮しながら僕はずっとこう祈っていた。まぶたの裏にはルミナリエの薔薇の模様が輝いていた。

## 人

映画「ジャンヌ・ダルク」を見た。強烈な映画だった。神からお告げを受けたジャンヌが、自分の信じる道をまっすぐ大胆に進んでいくのを見て、僕は自分の生き方の甘さを恥じた。

人は誰でも自分が理解してもらえれば嬉しい。けれど時には誰にも理解してもらえない事が分かっているも貫かねばならないこともある。ひとりの無学な小娘が、大の男達を率いて戦場で戦うなどという事を、当時理解できた人などいだろうか？ しかしジャンヌはやり遂げる。そのエネルギーが山を動かす。少しでも迷いがあったら出来ない。凄いなと思って圧倒された。

同時に信仰って素晴らしいなとも思った。ジャンヌのような生き方は、この世の価値観を越えた絶対的な信仰の成せる業である。

音楽の世界も同じである。たとえばパイロイト音楽祭の合唱指揮者ノルベルト・バラッチの練習に接していると、あまりの完璧主義に、彼が合唱指揮者としてのこの世の名声とか、地位とかが欲しくてこうした練習をやっているとは到底思えない。一日7時間にも及ぶ音楽稽古にさすがのパイロイト音楽祭合唱団のツワモノ共も疲れ果て、グチのひとつも出る。けれどもバラッチは負けない。あくまで戦う。戦って戦って、納得がいくまで決してやめない。たとえみんなに嫌われたとしても彼は貫き続けるであろう。

何故そこまで求めるのだろうか？ 何故そこまで貫くのだろうか？ 彼をそこまで駆り立てるものは一体何なのだろうか？ こうした疑問が傍にいてふつつつと沸き起こってくるほど、彼の要求は高く厳しい。出来上がったものの質は勿論、他に比べるものの無いほど高い。

でもこうした人たちが歴史を作ってきたのだと思う。バラッチとジャンヌ・ダルクを一緒にするのもいささか乱暴な気がするが、誤解を恐れず言ってしまうと、恐れを知らずに自ら信ずるものに従ってそれを貫き通した者達によって世界は回ってきたのだ。そしてそういう人達が、世の光となっているのである。

僕も少しでもそうした先人達に近づきたい。そのためには「甘い自分」「弱い自分」「小さい自分」を捨てなければ。そうして真に強い人間に成れた時、初めて僕はもっともっとやさしい人間になれるような気がする。

## Gloria in excelsis Deo et in terra pax hominibus bonae voluntatis

**天のいと高き所には神に栄光。地には善意の人に平和あれ。**

現代では上記のように二つの文として訳されている栄光の賛歌の冒頭は、かつてはラテン語の持つ文脈のあいまいさから3つの文として理解されていた。ヘンデルのメサイアの中の合唱曲は、Gloria to God in the highest, and peace on earth, good will toward men.であり、バッハのクリスマス・オラトリオ第2部の合唱曲も、Ehre sei Gott in der Höhe! Und Friede auf Erden, und den Menschen ein Wohlgefallen.である。共に日本語に訳すならば、「天のいと高き所には栄光、神にあれ。地には平和あれ。そして人には善き意思があるように。（あるいは喜びがあるように）」と

いった天、地、人の調和を祈り願う言葉になっている。聖書研究が進んで、ギリシャ語やヘブライ語の文献への徹底したアプローチの結果、現代訳の2文が生まれたのだと思われるが、僕個人とすれば昔の誤訳もなかなか味わいがある。好きなのである。

バッハは、クリスマス・オラトリオでは3文に訳されたドイツ語のテキストを使って、3種類の異なった音楽を作ったのに、口短調ミサ曲においては明らかに2文を念頭において作曲している。この不統一さは、当時すでに2種類の説が巷に出回っていた可能性を表わしている。

今回の口短調ミサ曲で僕は、「天のしるし」「地の祈り」「人の意思」を表現してみたい。前述した「光三態」は、そんな僕の意図を「たとえば」という感じで表してみたひとつの例である。勿論聴衆の皆さんは僕のイメージにしばられる必要は全くない。曲の中で自由なファンタジーを膨らませていただきたい。ただ忘れて欲しくないのは、この曲のテーマはあくまで祈りなのだという点である。プロテスタント信者のバッハが、何故ミサ曲という、いわばカトリック教会の礼拝形式の中に踏み込んでいったのか、という事についてはいろいろな説もあろうが、単純に考えると、バッハはこの曲の中で「昇華された純粋な祈りの世界の諸相」を表現したかったのだと思う。その為にミサという権威づけられた抽象形式を、絶対音楽の器として用いたのではないだろうか。口短調ミサ曲は、祈りというイデーの音楽化である。僕流に言えば、天、地、人、全ての森羅万象が奏でる、いわば大宇宙の祈りそのものである。

キリスト教において2つの完璧な祈りがあるという。ひとつは「天にましますわれらの父よ」で始まる、キリスト自身が弟子達に教えた有名な「主祷文」あるいは「主の祈り」といわれるもの。ここには短い言葉の中に、人が神の前で祈らなければならない事全てが網羅されている。

もっと短くて全ての祈りのエッセンスとなっている2つめの祈りこそ、グローリアの冒頭で使われている「天のいと高きところには神に栄光。地には善意の人に平和あれ。」である。これはルカの福音書第2章で、キリストが降誕した夜、羊飼いの見ている前で天使達の大群が大空いっぱいに響き渡る声で言った賛歌である。つまりこれは天使の祈りである。

大宇宙のあるべき姿、秩序、願いが、この短い文のなかに十分に表現されている。こうした祈りは人間には決して作ることが出来ないと思う。あまりにも簡素で、あまりにも深く、それでいてあまりにも自由であるからだ。

口短調ミサ曲は緻密に作られていると同時に実にのびのびと自由自在に魂の飛翔を表現してもいる。グローリアなどでは特に、聴いていて「わあ！楽しい！」と思うほどある種の「軽さ」が全体を支配している。この曲を演奏するんだったら、この軽さを表現しなければならない。力んではいけないし、深さはあっても決して重くなってはならない。解放された精神は軽いのであるから……。



# 「ミサ曲口短調」概説と歌詞対訳

用途：不明（特になし）

作曲年代：1724～50年（転用された原曲の作曲年代も考慮すると1714～50年）。

従来は「フーガの技法」BWV1080のBACHの主題入りの未完のフーガ、または「ライプツィヒ・オルガン・コラール」第18曲BWV668がバッハの最後の作品とされていましたが、その後の研究によりバッハは最後まで「ミサ曲口短調」に関わっていたらしいとのこと。この結果、各部の成立は以下ようになります。バッハの存命中に全曲通して演奏されたことはないようです。

MISSA (Kyrie, Gloria) 1733年ザクセン選帝侯に宮廷作曲家の称号を求める嘆願書と共に献呈

SYMBOLUM NICENUM 1749年

SANCTUS 1724年クリスマス用

OSANNA, BENEDICTUS, ... 1749年

歌詞：ラテン語ミサ通常文（一部改変）。本日の演奏ではドイツ語式発音を用います。

編成：トランペットI - III、ホルン、ティンパニ、フルートI/II、オーボエI - III、ファゴットI/II、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音（ファゴット、チェロ、コントラバス、オルガン）、独唱5 (S, SII, A, T, B)、合唱4～8部

使用楽譜：全音楽譜出版社「ベーレンライター・ヴォーカル・スコア - 2」（新バッハ全集準拠版）

## MISSA

### 1. Coro

#### Kyrie, eleison.

口短調、4/4拍子：フルートI/II、オーボエ・ダモーレI/II、ファゴット、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱5部 (S, SII, A, T, B)。多旋律主題はJ.H. ヴィルデラーの「ト短調ミサ曲」に由来。

### 2. Soprano

Christe, eleison.

二長調、4/4拍子：バイオリン斉奏、通奏低音。

### 3. Coro

#### Kyrie, eleison.

嬰へ短調、4/2拍子：フルート、オーボエ・ダモーレI/II、ファゴット、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱4部 (S, A, T, B)。

### 4 - 5. Coro

#### Gloria in excelsis Deo.

#### Et in terra pax

#### hominibus bonae voluntatis.

二長調、3/8(4.)～4/4(5.)拍子：トランペットI - III、ティンパニ、フルートI/II、オーボエI/II、ファゴット、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱5部。

### 6. Soprano

Laudamus te, benedicimus te,  
adoramus te, glorificamus te.

イ長調、4/4拍子：バイオリン独奏とI/II、ビオラ、通奏低音。

## ミサ

### 1. 合唱

主よ、憐れんでください。

口短調、4/4拍子：フルートI/II、オーボエ・ダモーレI/II、ファゴット、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱5部 (S, SII, A, T, B)。多旋律主題はJ.H. ヴィルデラーの「ト短調ミサ曲」に由来。

### 2. 二重唱：ソプラノ

キリストよ、憐れんでください。

### 3. 合唱

主よ、憐れんでください。

嬰へ短調、4/2拍子：フルート、オーボエ・ダモーレI/II、ファゴット、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱4部 (S, A, T, B)。

### 4 - 5. 合唱

いと高きところでは神に栄光あれ。

そして地上では善意の人々に平和あれ。

### 6. ソプラノ 独唱

あなたをお誉めします、あなたを讃えます、  
あなたを拝みます、あなたを崇めます。

## 7. Coro

**Gratias agimus tibi  
propter magnam gloriam tuam.**

二長調、4/2拍子：トランペットI - III、ティンパニ、フルート、オーボエI/II、ファゴット、  
バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱4部。原曲 - BWV29/2 (1731)。

## 7. 合唱

あなたに感謝を捧げます、  
あなたの大いなる栄光のゆえに。

## 8. Soprano ・ Tenore

Domine Deus, Rex coelestis,  
Deus Pater omnipotens.

Domine Fili unigenite, Jesu Christe altissime.

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

ト長調、4/4拍子：フルート独奏、バイオリンI/II弱音器付き、ビオラ弱音器付き、通奏低音。

下線部：ミサ通常文にはない単語です。二重唱化する際の音節数合わせのため挿入されました。次の曲に切れ目なく続きます。原曲 - BWV193a (1727)。

## 8. 二重唱：ソプラノ ・ テノール

神なる主、天の王、  
全能の父なる神よ、

主の独り子、いと高きイエス・キリスト。

神なる主、神の小羊、父の御子。

## 9. Coro

**Qui tollis peccata mundi,  
miserere nobis.**

**Qui tollis peccata mundi,  
suscipe deprecationem nostram.**

口短調、3/4拍子：フルートI/II、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱4部。

原曲 - BWV46/1 (1723)。

## 9. 合唱

世の罪を除かれた方よ、  
私たちが憐れんでください。

世の罪を除かれた方よ、  
私たちの願いを聞き入れてください。

## 10. Alto

Qui sedes ad dexteram Patris,  
miserere nobis.

口短調、6/8拍子：オーボエ・ダモーレ独奏、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音。

## 10. アルト独唱

父の右に座られる方よ、  
私たちが憐れんでください。

## 11. Basso

Quoniam tu solus sanctus, tu solus Dominus,  
主、

tu solus altissimus, Jesu Christe.

二長調、3/4拍子：ホルン独奏、ファゴットI/II、通奏低音。

次の曲に切れ目なく続きます。

## 11. バス独唱

それはあなただけが聖であり、あなただけが

あなただけが最も高い、イエス・キリスト。

## 12. Coro

**Cum Sancto Spiritu**

**in gloria Dei Patris, amen.**

二長調、3/4拍子：トランペットI - III、ティンパニ、フルートI/II、オーボエI/II、ファゴット、  
バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱5部。下線部：元はヘブライ語で「そうであるように」という意味を持ちます。

## 12. 合唱

聖霊とともに

父なる神の栄光のうちに、真に\_\_。

## SYMBOLUM NICENUM

### 1. Coro

**Credo in unum Deum.**

イ長調、4/2拍子：バイオリンI/II、通奏低音、合唱5部。

### 2. Coro

**Patrem omnipotentem,  
factorem coeli et terrae,  
visibilem omnium et invisibilem.**

ニ長調、2/2拍子：トランペットI-III、ティンパニ、オーボエI/II、バイオリンI/II、ピオラ、通奏低音、合唱4部。原曲 - BWV171/1 (1729)。

### 3. Soprano ・ Alto

**Et in unum Dominum Jesum Christum,  
Filius Dei unigenitus  
et ex Patre natus ante omnia saecula.**

Deum de Deo, lumen de lumine,  
Deum verum de Deo vero,  
genitum, non factum  
consubstantialem Patri,  
per quem omnia facta sunt.  
Qui propter nos homines,  
et propter nostram salutem  
descendit de coelis.

ト長調、4/4拍子：オーボエ・ダモーレI/II、バイオリンI/II、ピオラ、通奏低音。

### 4. Coro

**Et incarnatus est de Spiritu sancto  
ex Maria virgine, et homo factus est.**

口短調、3/4拍子：バイオリンI/II、通奏低音、合唱5部。

### 5. Coro

**Crucifixus etiam pro nobis  
sub Pontio Pilato,  
passus, et sepultus est.**

ホ短調、3/2拍子：フルートI/II、バイオリンI/II、ピオラ、通奏低音、合唱4部。  
原曲 - BWV12/2 (1714)。

### 6. Coro

**Et resurrexit tertia die  
secundum scripturas;  
et ascendit in coelum,  
sedet ad dexteram Dei Patris,  
et iterum venturus est cum gloria  
judicare vivos et mortuos,**

## ニケア信条

### 1. 合唱

(私は)信じる、唯一の神を。

### 2. 合唱

全能の父、  
天と地、  
見えるもの全てと見えぬものの造り主。

### 3. 二重唱：ソプラノ ・ アルト

更に唯一の主イエス・キリスト、  
神の独り子を(私は信じる)。  
そして(イエスは)全ての世の前に  
父より生まれた。

神の神、光の光、  
まことの神のまことの神、  
造られることなく生まれ、  
全てを造られた父と一体となった。

彼(イエス)は私たち人類のために、  
また私たちの救いのために  
天より下って来られた。

### 4. 合唱

そして聖霊により肉体を受け  
処女マリアより生れ、人と成られた。

### 5. 合唱

私たちのためポンチオ・ピラトのもと、  
十字架に付けられ、  
苦しみを受け、そして葬られた。

### 6. 合唱

そして聖書の通り第三日目に蘇り、

そして天に昇り、  
神なる父の右に座られた。  
そして栄光とともに再び来られ  
生ける者と死せる者を裁かれる。

**cujus regni non erit finis.**

**彼の王国は終わることはない。**

二長調、3/4拍子：トランペットI - III、ティンパニ、フルートI/II、オーボエI/II、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱5部。下線部：ミサ通常文にはない単語です。

原曲 - BWV Anh.9/1 (1727)

## 7. Basso

Et in Spiritum sanctum

Dominum et vivificantem,

qui ex Patre Filioque procedit;

qui cum Patre et Filio simul adoratur

et conglorificatur;

qui locutus est per prophetas.

Et unam sanctam catholicam

et apostolicam ecclesiam.

イ長調、6/8拍子：オーボエ・ダモーレI/II、通奏低音。

## 7. バス独唱

更に（私は信じる、）聖なる霊、

主でありまた生命を与えてくださるものを。

それは父と子より出て、

それは父と子とともに同様に拝まれ、

また崇められ、

それは予言者により語られた。

そして（私は信じる、）唯一、神聖、公にして

使徒継承の教会を。

## 8. Coro

**Confiteor unum baptisma**

**in remissionem peccatorum.**

**Et expecto resurrectionem mortuorum**

嬰へ短調、2/2拍子：通奏低音、合唱5部。次の曲に切れ目なく続きます。

## 8. 合唱

（私は）唯一の洗礼を認める。

（それは）罪の許しを得るためである。

そして（私は）死者の蘇りと...

## 9. Coro

**Et expecto resurrectionem mortuorum**

**et vitam venturi saeculi, amen.**

二長調、2/2拍子：トランペットI - III、ティンパニ、フルートI/II、オーボエI/II、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱5部。原曲 - BWV120/2 (1728)。

## 9. 合唱

そして（私は）死者の蘇りと

来世の生命を待ち望む。真に。

## SANCTUS

Coro

Sanctus, sanctus, sanctus,

sanctus Dominus Deus Sabaoth.

Pleni sunt coeli et terra gloria ejus.

二長調、4/4～3/8拍子：トランペットI - III、ティンパニ、オーボエI - III、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱6部。下線部：ミサ通常文では "tua" 「あなたの」となっています。

## サンクトゥス

合唱

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、

聖なるかな、万軍の神なる主。

彼（神）の栄光は天と地に満ちる。

## OSANNA, BENEDICTUS,

**AGNUS DEI**

**ET DONA NOBIS PACEM**

1. Coro

**Osanna in excelsis.**

二長調、3/8拍子：トランペットI - III、ティンパニ、フルートI/II、オーボエI/II、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱8部 (S, A, T, B: I/II)。

下線部：元はヘブライ語で<ホシアナ>、「救いたまえ」という意味を持ちます。

原曲 - BWV Anh.11/1 (1732)、これはBWV215/1 (1732)の原曲でもあります。

## オザンナ、ベネディクトゥス、

**アグヌス・デイと**

**ドナ・ノビス・パーツェム**

1. 合唱

いと高きところに居ます方に万歳。

## 2. Tenore

Benedictus qui venit in nomine Domini.

口短調、3/4拍子：フルート独奏、通奏低音。助奏楽器は旧全集ではバイオリン独奏でした（K.リヒターの1961年の録音など）。

## 3. Coro ('Osanna' repetatur)

### 4. Alto

Agnus Dei qui tollis peccata mundi,  
miserere nobis.

ト短調、4/4拍子：バイオリン斉奏、通奏低音。原曲 - BWV11/4 (1735)。

### 5. Coro

**Dona nobis pacem.**

二長調、4/2拍子：トランペットI - III、ティンパニ、フルート、オーボエI/II、バイオリンI/II、ビオラ、通奏低音、合唱4部 (S, A, T, B)。原曲 - BWV29/2 (1731)。

## 2. テノール独唱

主の御名によって来られる方は  
祝福されますように。

## 3. 合唱（「オザンナ」繰り返し）

### 4. アルト独唱

神の小羊、世の罪を除かれる方よ、  
私たちを憐れんでください。

### 5. 合唱

**私たちに平和をお与えください。**

参考・概説 - G.レオンハルト指揮の同曲CD (BVCD-7003 ~ 04)の添付解説 - 著・W.Blankenburg / 訳・佐々木節夫。

- ・歌詞対訳 - 音楽之友社「合唱事典」ミサ通常文対訳。
- ・曲番号 - 新バッハ全集準拠の楽譜に準じました。
- ・原曲（転用関係） - 東京書籍「バッハ事典」

「概説と歌詞対訳」に関するご意見・ご質問などは合唱団：萩野（E-mail: bach@tcp-ip.or.jp）へお寄せください。

# 浜松バッハ研究会演奏活動年譜

## 主催公演

上演日	上演曲目	指揮	上演会場
—			
1985.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1986. 3.28	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1986.12.22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	遠州栄光教会
1987. 4.13	バッハ「マタイ受難曲」朗読と抜粋	河野周平	遠州栄光教会
1988. 3.21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	福祉文化会館
1988.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	遠州栄光教会
1990.10. 7	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	福祉文化会館
1990.12.16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	遠州栄光教会
1991. 8.12	バッハ「ヨハネ受難曲」朗読と合唱	三澤洋史	龍山村森林文化会館
1992. 3.22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	福祉文化会館
1993. 3.21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	福祉文化会館
1994. 6.12	「無伴奏合唱への誘い」BWV225/229他	三澤洋史	遠州栄光教会
1995. 1.22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他	三澤洋史	遠州栄光教会
1996. 2.18	バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	アクトシティ中ホール
1997. 2.16	バッハ「マニフィカート」	三澤洋史	アクトシティ中ホール
1998. 4. 5	モーツァルト「レクイエム（バイヤー版）」 バッハ：BWV227、BWV106、BWV131他	三澤洋史	福祉文化会館

## 合同・協賛公演

上演日	上演曲目および内容	上演会場
1986. 9.15	浜松クリスチャン・クワイアとの合同演奏会 モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276 S. 藤井多恵子、Pf. 鈴木敦子、Orch. カペラ・アカデミカ	遠州栄光教会
1986.10.19	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1987. 9.20	教会音楽コンサート協賛 - BWV56/80 Br. 今仲幸雄	遠州栄光教会
1987.10. 9	「ムーンライト・コンサート」協賛	天竜・月光山海蔵寺
1988. 3. 5	正泉寺「山寺音楽会」協賛 バッハ「マタイ受難曲」コラールとその原曲	引佐郡井伊谷正泉寺
1991. 3.17	瑞穂会ピアノ発表会賛助出演 モーツァルト：12番ミサよりキリエとグロリア、Ave verum corpus、 バッハ：BWV140よりコラール	クリエート浜松
1991. 6.30	掛川市駅南学習センター美感ホールのオープニング モーツァルト：Sancta Maria K273, Regina Coeli K276, Ave verum corpus Orch. カペラ・アカデミカ	掛川市美感ホール
1991.12.23	市政80周年記念ラートハウス・コンツェルト バッハ「クリスマス・オラトリオ」抜粋、Orch. カペラ・アカデミカ	浜松市役所ホール

# 合唱団員募集

## 浜松バッハ研究会

浜松バッハ研究会も96年上演の「マタイ受難曲」のための練習以来団員数も増え、創立以来の  
アットホームな雰囲気を保ちつつも、新たな飛躍を遂げ始めました。最近では電子音源を利用した仮  
想オーケストラ伴奏との合わせ練習や音取り教材提供など、ユニークな試みも行っています。今回  
は2ヶ年計画の締めくくりとして、久々にバッハの晩年の大作「ミサ曲短調」BWV232を再演し  
ました。このような私たちの活動に興味をお持ちの方は、ぜひ一度練習場までお越しください。

**今後の活動** ・モテト2/4/6番、カンタータ80番、復活祭オラトリオ - 2001年春上演予定  
・バッハゆかりの地をたずねるドイツ演奏旅行(2000年末)を企画中

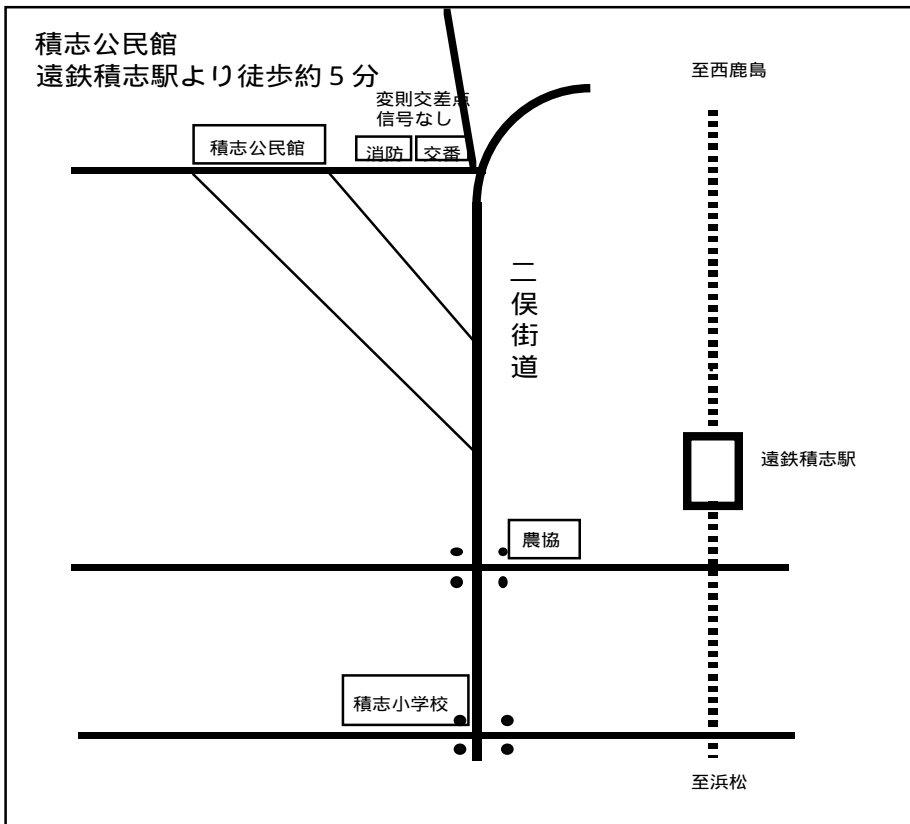
**練習場** 積志公民館(下地図)ほか

**練習日時** ・毎週土曜日 19:00~21:30  
・月1回三澤先生の練習 主に日曜日 13:00~17:00

**会費** 月額2500円(学生2000円、高校生1500円)

**連絡先** 早川徳次(053-472-0341[FAX]、E-mail: tmmmhykw@mb.infoweb.ne.jp)

**ホームページ** <http://www.tcp-ip.or.jp/~bach/>、E-mail: bach@tcp-ip.or.jp



## 豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理・・・という豊橋在住の人達が集まって、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身です。

毎週豊橋で練習し、月1回は浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に、三澤先生の練習に参加しています。豊橋及びその近くにお住まいで、バッハの声楽作品を歌いたい方は、ぜひ一度練習を見にお越しください。

- 練習場所** ・毎週金曜日 19:45～21:45 八町小学校音楽室（下地図、運動場南東角1F）  
・月1回三澤先生の練習 主に日曜日13:00～17:00 浜松市積志公民館（前頁地図）ほか
- 会費** 月額1500円
- 連絡先** 安井研一（0532-47-0676）

